



No.32 Mar.2009

NABUNKEN NEWS



独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577 奈良市二条町2丁目9-1
<http://www.nabunken.jp/>

漢魏洛陽城・北魏宮城2号門の発掘

2008年3月13日、中国科学院考古研究所と奈良文化財研究所との間で、中国漢魏洛陽城の共同発掘調査に関する協定の調印式がおこなわれました。奈良文化財研究所と社会科学院考古研究所は、これまで北魏洛陽永寧寺・漢長安城桂宮・唐長安城大明宮太液池など20年来、共同調査の実績を重ねてきましたが、今回の共同調査は漢魏洛陽城中枢部の様相解明をめざすものです。本格的な共同調査初年度にあたる2008年は、春期（4～6月）・秋期（11～1月）の2回にわたって発掘調査を実施しました。発掘期間中は研究員が中国に滞在し、写真・実測も専門の研究員を派遣して調査を進めました。

洛陽は中国河南省の北西部にある都市です。「九朝の都」と呼ばれる洛陽は、古代王朝の多くが都をおいた古都として知られています。同じく古代の都として知られる長安（現在の西安）にも近く、華北と華南を結ぶ黄河に沿った重要な地域に位置しています。この地域は「中原」と呼ばれ、古代国家が霸権を争う歴史の主要舞台となっていました。

特に、漢魏洛陽城は東周・後漢・魏・晋・北魏などの王朝が首都を構えた遺跡で、その存続年代は延べ1600年にも及びます。そのため、紀元前の小さな城郭からスタートした漢魏洛陽城は、後漢時代には巨大な宮城となり、北魏時代には周囲に碁盤目状の条坊を完備する本格的都城へと発展してきました。この漢魏洛陽城を基礎として発展したのが、東アジア諸国の都城形成に大きな影響を与えた唐長安城です。このように、漢魏洛陽城の調査研究は、日本における都城の源流を探るうえでも重要と言えます。

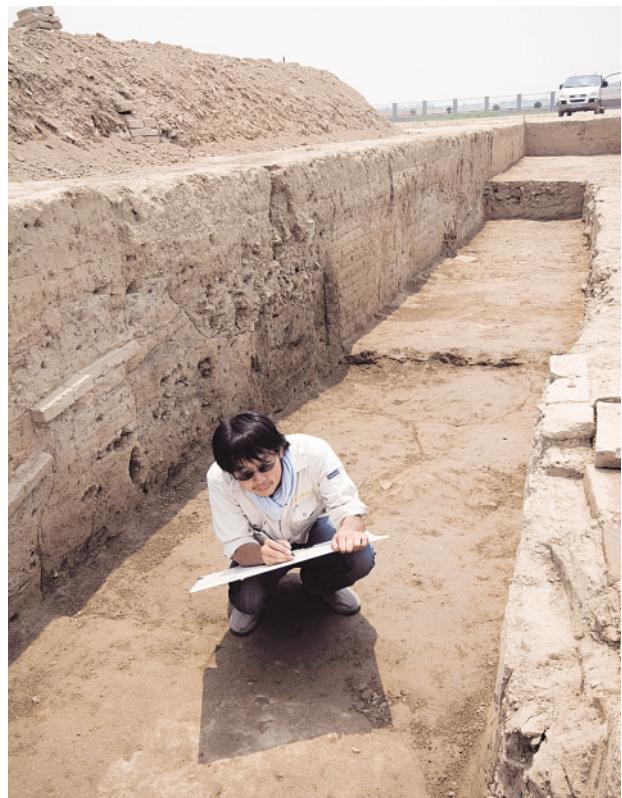
2008年は、北魏時代における宮城の中心の部分、その門にあたる遺構の発掘をおこないました。北魏宮城の正門である閻闔門は、1999・2000年に社会科学院考古研究所が既に発掘していますが、2008年は

その北側の「2号門遺構」をおこないました。まず、春期の試掘調査で門の遺構の範囲を確認したうえで、秋期には遺構の全範囲を発掘しました。

その結果、大きな版築基壇をもつ門の全体像が明らかになりました。また、出土した瓦などの遺物から、門の創建年代を推定する作業も進んでおり、漢魏洛陽城の宮城構造の変遷を考えるうえで重要な発掘成果となりました。

奈良文化財研究所と社会科学院考古研究所との共同発掘は、4年間の計画になっています。来年度以降は、さらに北側の北魏宮城の中心地を発掘していく予定です。今後の調査で、漢魏洛陽城中枢部の様相がどんどん明らかになっていくことでしょう。三国志の英雄たちが活躍した場所で、日本都城制の源流を探る調査が続けられています。

（都城発掘調査部 城倉 正祥）



実測作業の様子